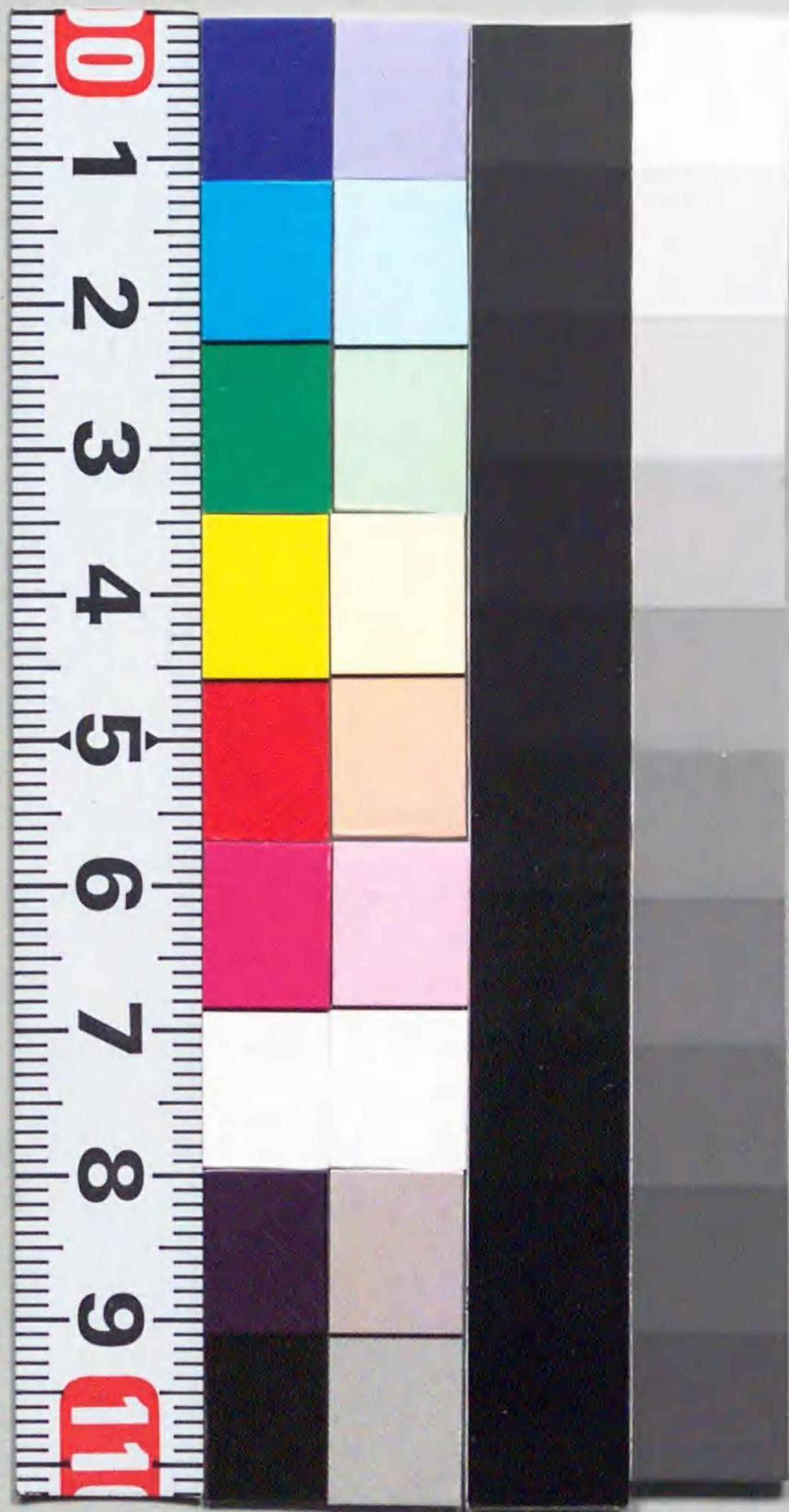
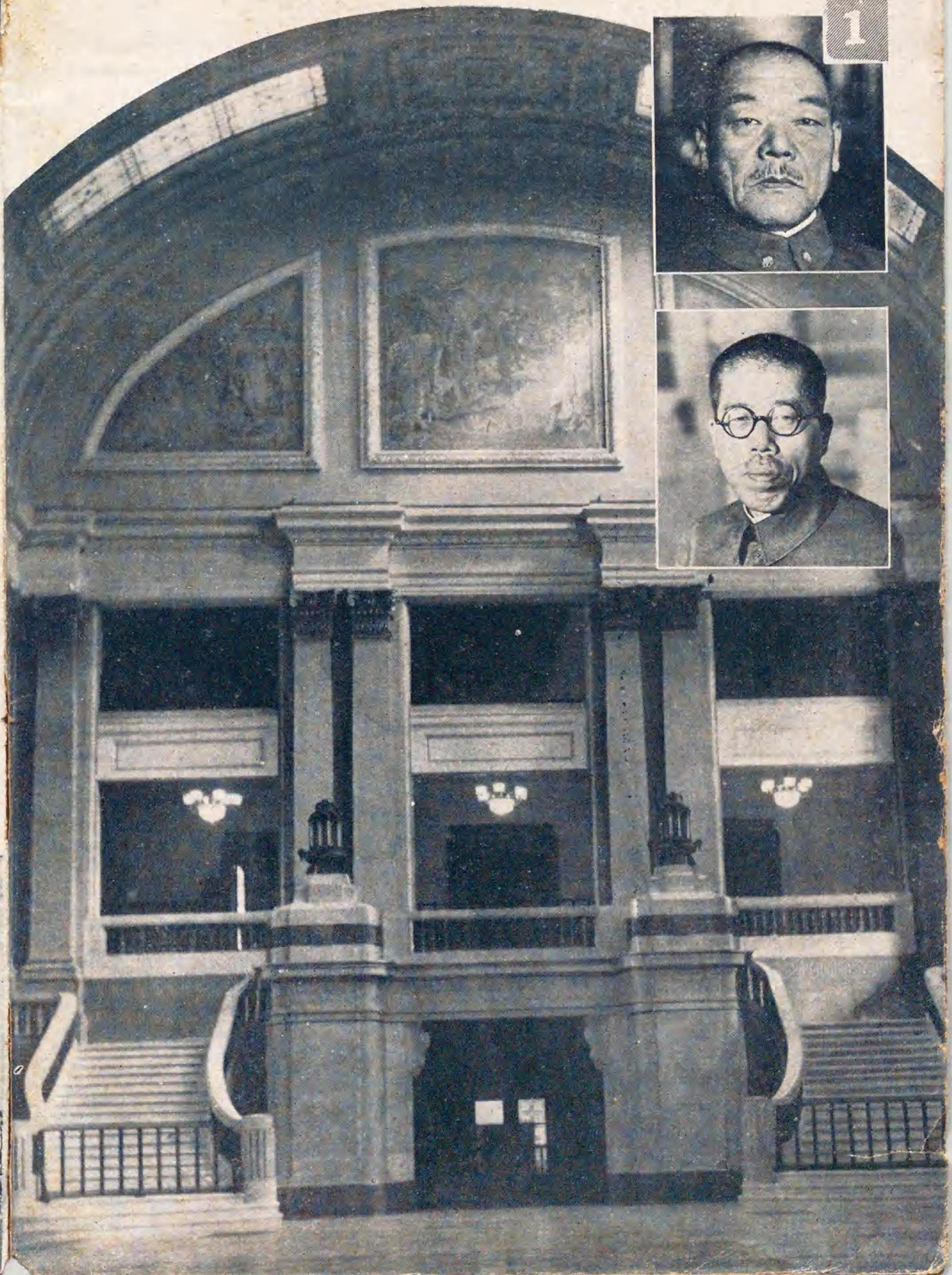


# 鮮視察の菜

Y994

J4983





### 一、朝鮮視察の目標

従来、内地から朝鮮を訪ふ人々が短時日の視察で唯観光的に朝鮮の表面だけを視、或は一部の片寄つた人の話を聞き一部分の現象だけを捉へて軽々に速断する結果、謬つた朝鮮観、朝鮮論などを方々に撒き散らし、其の自身の短見を暴露するだけでなく、朝鮮のためにも國家のためにも面白くない影響を不知不識の間に及ぼしたことが無いとは言へない。もとより朝鮮の社會現象は明暗、凸凹甚だしいものがある。思想や文化の上では舊世紀と新世紀とが雜然入り混つて居る。それは内地が明治維新以來七十餘年かゝつて經驗し來つた時勢の變化を、朝鮮はその半分の年月をもつて受容れつゝある「過程」を意味するものであるから、内地の尺度をそのまま朝鮮に押し當てることの無理なのは謂ふまでもない。

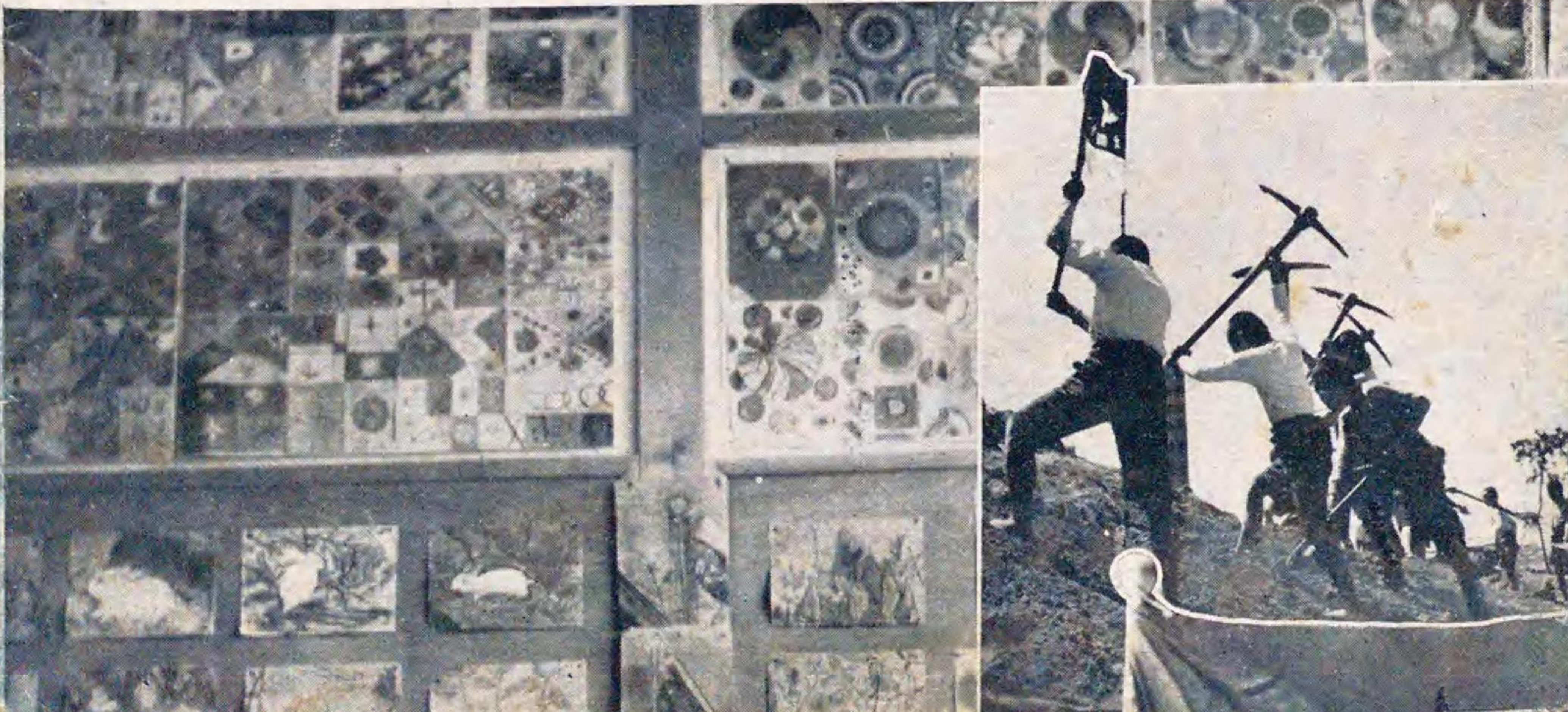
だが、優れたる觀察者はこの雜然たる朝鮮の社會相を透視して、ある大いなる拒みがたき力が大き流れをなして一定の方向に流れてゐる事實を見て取るであらう。或る内地の炯眼なる名士はそれを「以前に比べて半島人の眼の色がすっかり變つた」といふ言葉で表現した。

物的、經濟的なるものゝ外に、精神、思想的なる新興朝鮮のまことの姿を把握することをもつて朝鮮觀の基礎となして貰ひたいのである。

### 一、朝鮮統治の基本理念

「黒船來！」に中世封建の夢破れ、歐米の脅威に抗して起ち上つた皇國にとつて朝鮮の安寧が絶対に必要であり、そのために

國民學校



の脅威に抗して立ち上つた皇國にとつて朝鮮の安寧が絶対に必要であり、そのために

國民學校

テ備ニ制兵徴



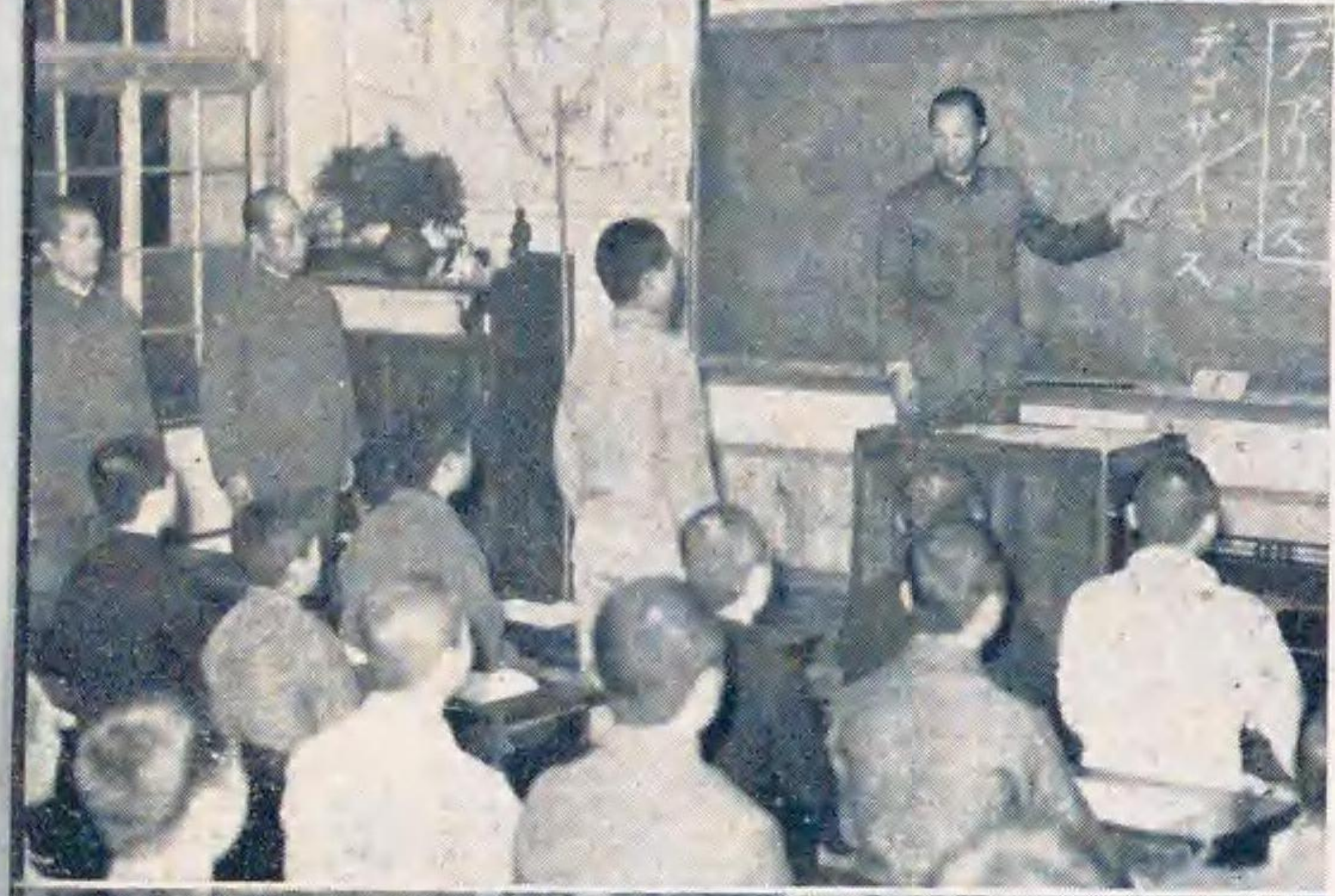
日清、日露の兩大役に國運を賭し、歴史發展の自然として明治四十三年の併合となつた。「一視同仁」と申す御言葉は、大正天皇の御詔の中に拜するのであるが、併合の御趣旨が其處に存したことは八紘爲宇の國體理想に照しても、併合前後の史實に徴しても瞭かである。朝鮮統治を以て英米以下の植民帝國主義的理念と混同して兎角の論をなした短見者が世界にも、内鮮の間にも尠くなかつた時代があるが、其の誤謬は三十餘年統治の實績によつて反證されて來た。すなはち、内鮮の關係は外國に於ける事例と全く異り家族的一體の關係である。速かに半島同胞の生活と福祉の水準を内地人の夫れと同じ高さにまで引上げずには措かぬといふ意圖のもとに、歴代總督苦心相承けて百般の施設經營に努力を傾けた結果が今日見るが如き朝鮮の姿である。どこまでも至純なる大愛を以て血肉の一體關係を深めねばやまない此の世界無比の統治精神を別稱して「皇道統治」理念と呼ぶことができるであらう。

### 一、小磯統理の指針



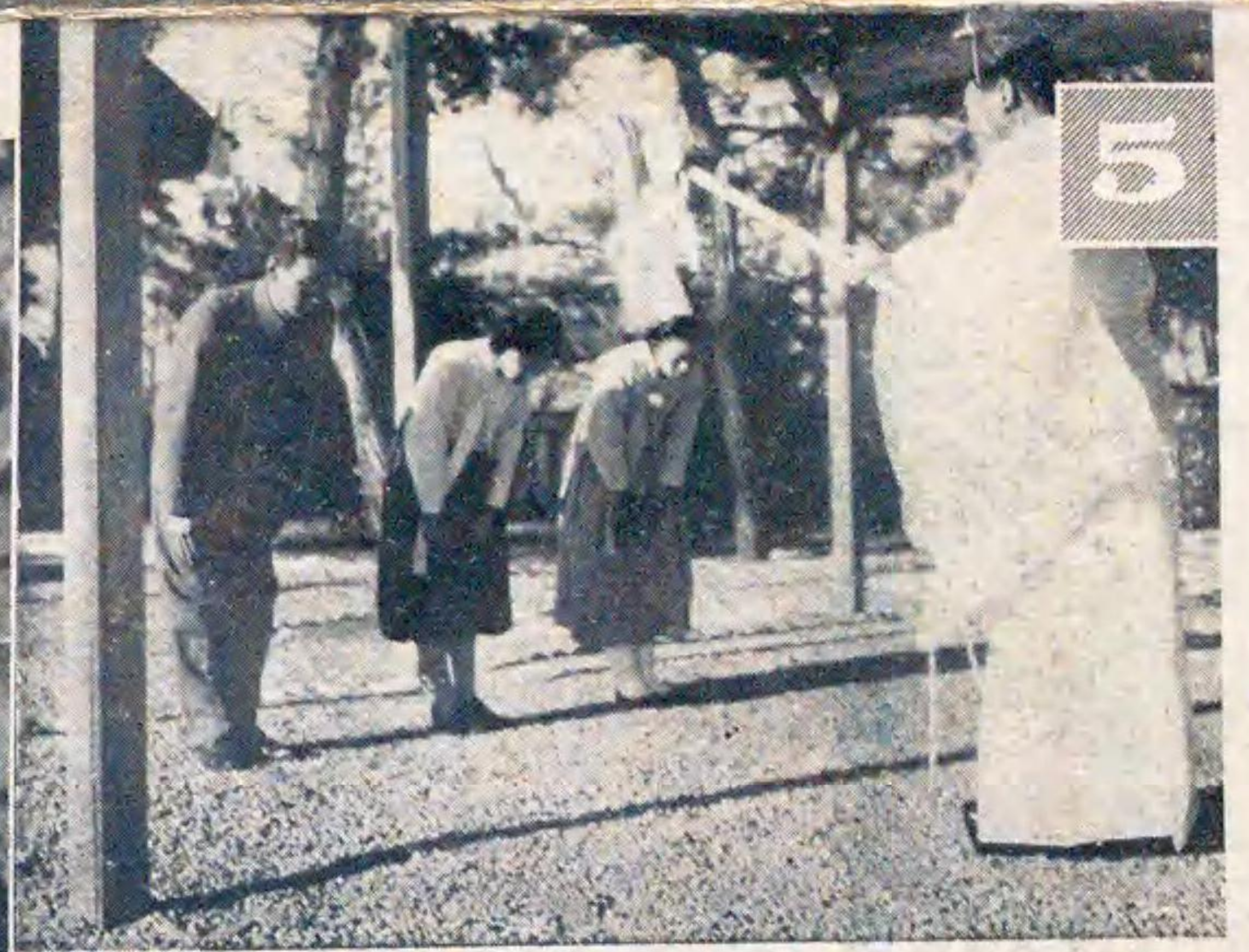
前大戰後わが國をも洗つた不純なる世界思潮——殊にアメリカの思想謀略たる民族自決主義や、共產黨の赤化革命主義などが朝鮮にも幾多の不幸を齎した時期がある。が、皇國が東亞保全の使命に再蹶起した滿洲事變を契機として半島の人心は内地と呼應して一變した。會て「内鮮融和」を標識とした時期は此の間に去り、支那事變にさしかゝつては「内鮮一體」の標識下に結束自ら成り、さらに大東亞戰下に移行しては既に内鮮一體も事古く、ひたすら「大東亞の指導國民としての資質鍊成」を唯一最大の命題として二千四百萬同胞は奮進して居る。小磯總督は此の期に於て任に蒞み、「國體本義の透徹」によつて「道義朝鮮の建設」を必期せんとするの意圖を瞭かにし昭和十八年八月一日を以て實施の徵兵制度および昭和二十一年度を以て實施の義務教育制準備を軸心とする精神態勢の大革新を指導すると共に此の推進力により大東亞北邊の國策線上、地理的、資源的に優位を占むる立場に即し半島産業經濟の躍進を企圖しつゝある。即ち小磯總督は着任に際し其諭告に於て「今や皇國は其の總力を擧げて一路聖戰目的の完遂に邁進し國民の努力、國家の施策亦一切を擧げて悉く此の一點に傾倒しつゝあるの秋顧みて大東亞北邊の要位を扼する我が半島の責務に及べば、須らく半島の有する巨大優秀なる特質を最

立ち上つた朝鮮青年



張植君 營長





5

神宮参拜



高度に増強發揮して、以て強力に國家の期待に副ふ所なかるべからず。而して半島の興隆と聖戰目的完遂の爲必須不可缺の要件たる國體主義の透徹に至りては、朝鮮尙未だ十分ならざるの憾あり、就中半島衆庶の現狀に於て其の然るを認む。庶幾くは、聖勅に遵由して更に一段國體の本義に徹し、國民たるの自覺を徹底向上し、内鮮一體の歸趨をして決して徒らなる形式的同調に墮せしむるの悔なきを期し、以て唯一誠、天壤無窮の皇運を扶翼し奉るの實を示さざるべからず、此の如きは單り半島同胞自ら其光榮ある將來を開拓向上する所以たるのみならず、亦以て光輝ある大東亞經綸の顯現に參與するの途なり。」と國體と本義の透徹による道義朝鮮の確立を宣揚しこれが具現策として修養鍊成の徹底的實踐、生産力の決勝的増強、庶政執務の劃期的刷新の三綱領を掲げるところがあつたが之等小磯統理の理念は爾後着々諸施策に反映、實踐を見つゝある。即ち官民の鍊成機關の新設、教育施設の擴充、重要軍需資材たる鑛、工、農の増産促進、食糧の安定、輸送力の強化、電力統制、行政機構並國民總力運動組織の改組、上意下達、庶政執務の刷新等新らしき施策は漸を追ふて實施せられつゝある。

### 一、躍進三十餘年

始政以來三十有二年歴代當局相承けて物心兩面に互り朝鮮の開発發展に絶大の努力を傾け來りたる處之が躍進の跡を若干の事例に依り覗へば次の如くである。

1. 人口増加 (單位千人)  
 併合當時 一三、三一一  
 現在(昭和十六年) 二四、七〇三  
 (約二倍)
2. 豫算 (單位千圓)  
 併合當時 二一、九七八  
 現在(昭和十六年) 一、三一九、二七四  
 (昭和十八年度)(約五十一倍)  
 備考 昭和十八年度豫算には追加豫算を含みます
3. 産業統計 (單位千圓)  
 併合當時 二四六、四一五  
 現在(昭和十六年) 五、〇七八、九四七  
 (約二十倍)  
 但し 工産額は昭和十五年末を合計せり
4. 交通(道路) (單位キロ)  
 併合當時 二、〇一一  
 現在(昭和十六年) 二六、七六七  
 (約十三倍)



### 一、新しき朝鮮

#### ▽教育

皇國臣民化の徹底は一に教育の普及に俟つことが多い。されば教學の普及振作は歴代總督の重要政綱をなすもので國體明徴、内鮮一體、忍苦鍛鍊の三大綱領に基き累年施設の擴充に腐心し來つたが昭和十三年に内鮮教學を建前とする教育令の劃期的改正を見從來の普通學校、高等普通學校を廢し夫れ夫れ小學校及中學校に統一した。次で昭和十六年四月内地と歩調を一にして國民學校制度を實施したが、愈々昭和二十一年度より待望の義務教育制が實施されることに決定し、總督府に於てはこれが準備の爲十八年度以降更に師範學校並に國民學校の増設、既設學校の學級増加に努めることになつた。なほ現在學齡兒童就學率は六割で併合當時に比し格段の躍進を遂げたが、義務教育制實施の初年度たる昭和二十一年には就學率男子九割、女子五割を目標とされてゐる。

#### ▽創氏制度

昭和十五年二月十一日皇紀二千六百年の紀元節を期とし朝鮮民事令を改正し、從來なかつた氏の制度を新設し半島同胞に内地人式氏名を稱ふる途を開いたが之による創氏戸數は既に約三百二十二萬九千戸半島總戸數の八割五分に及んでゐる。

#### ▽志願兵制より徴兵制へ

朝鮮陸軍特別志願兵制度は支那事變の翌年である昭和十三年四月創設されたが、これは滿洲事變以來頓に昂揚され來りたる半島同胞の愛國の赤誠が認められ、殊に支那事變に刺戟され「我等も國防の第一線に起つ光榮を分擔し度い」との切なる半島青年の要望に應へて設定されたものである。即ちこれが初年度の應募者數は定員四百名に對し二千九百四十六名であつたが、時局の進展と共に逐年増加を見昭和十七年度には採用人員三千名に對し六十餘倍の二十五萬一千五百九十四名に達し此の中には名門の子弟や中等學校卒業者も多數含まれるに至つた。この趨勢に鑑み總督府では更に京城府外に第二志願兵訓練所を増設することに於て既に十七年十二月から取敢ず平壤に假訓練所を開設收容してゐる。斯くて



7

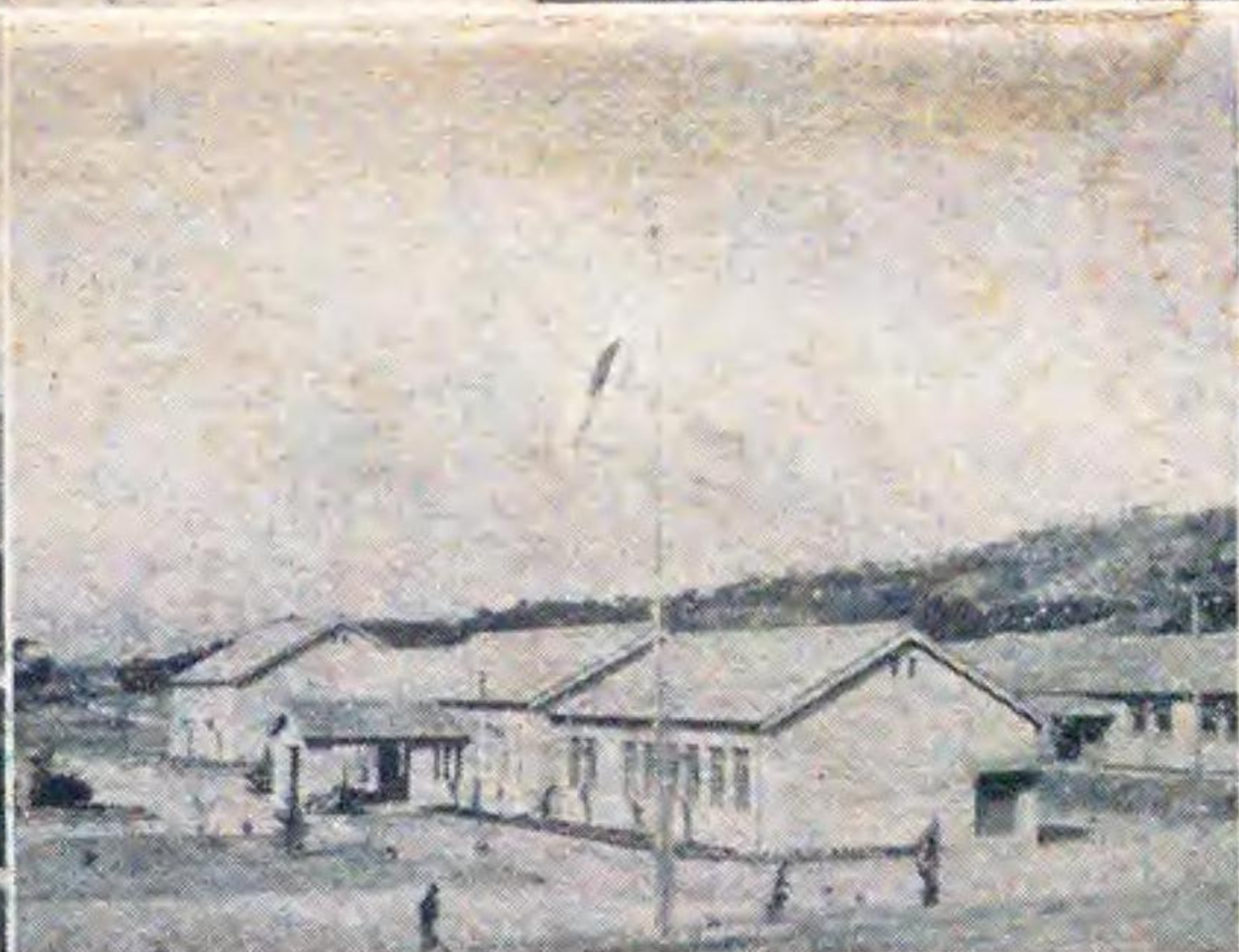


民 國

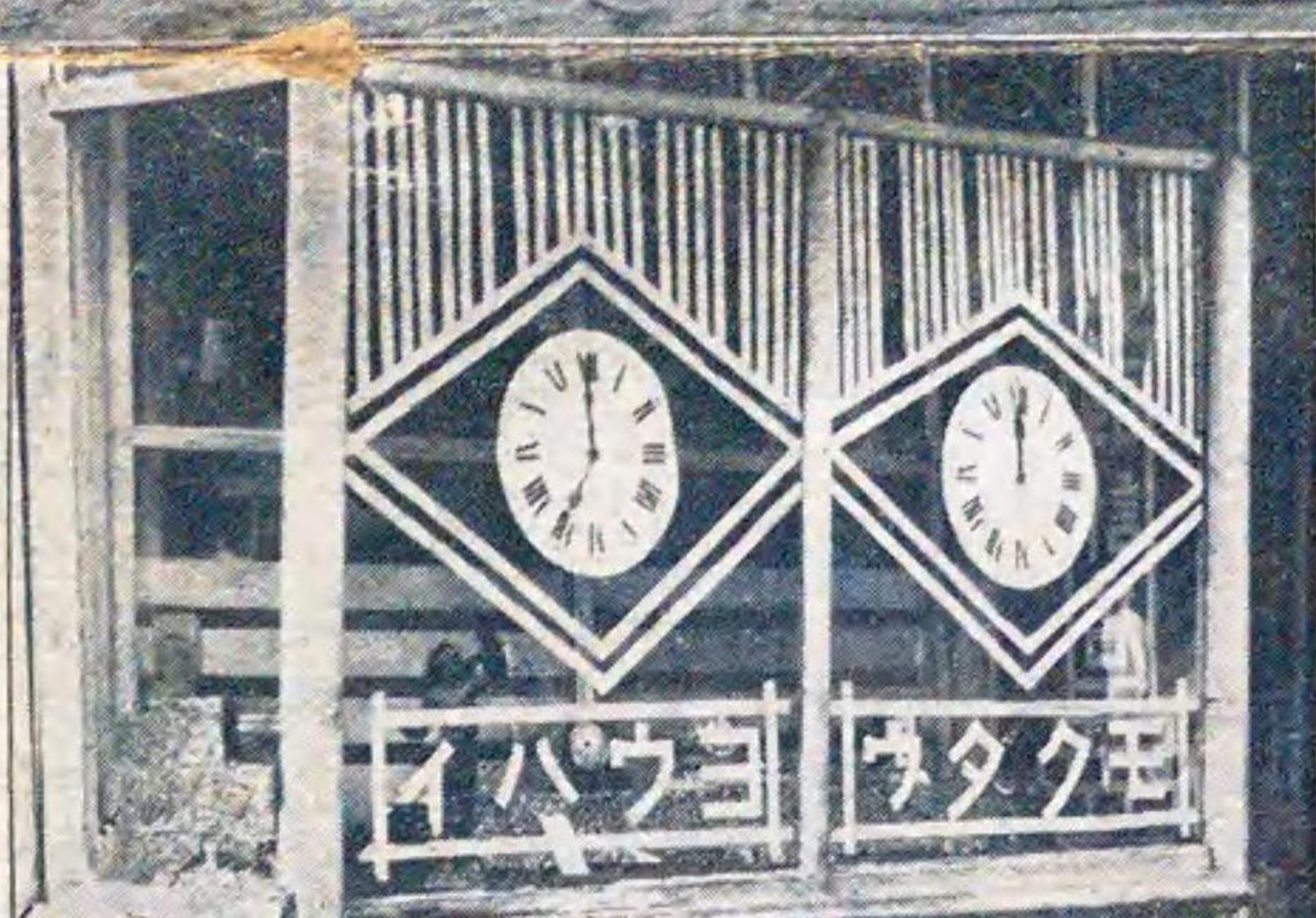
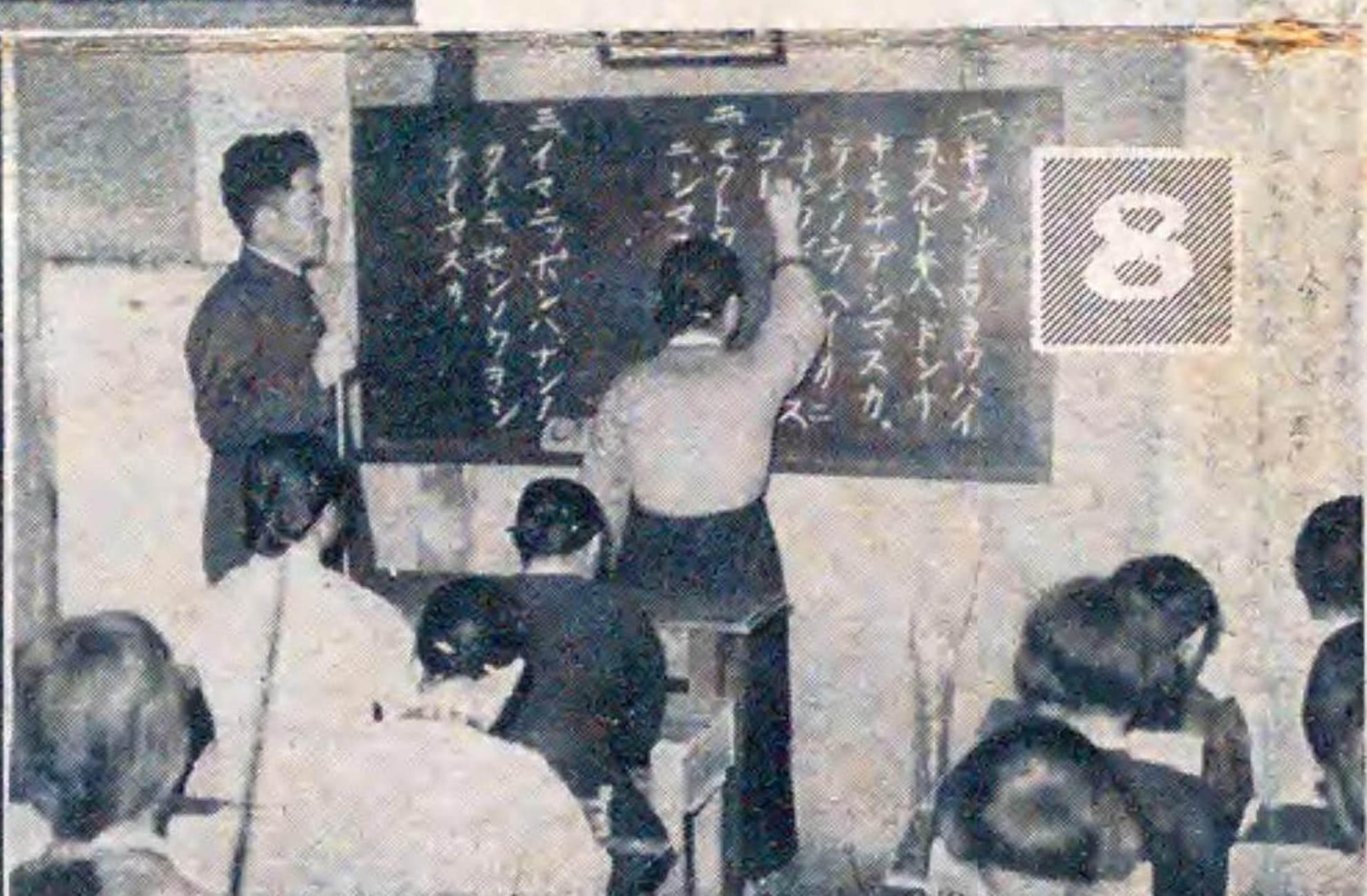




7



8



民

總

力

運

動

▽志願兵制より徴兵制へ

朝鮮陸軍特別志願兵制度は支那事變の翌年である昭和十三年四月創設されたが、これは滿洲事變以來頓に昂揚され來りたる半島同胞の愛國の赤誠が認められ、殊に支那事變に刺戟され「我等も國防の第一線に起つ光榮を分擔し度い」との切なる半島青年の要望に應へて設定されたものである。即ちこれが初年度の應募者数は定員四百名に對し二千九百四十六名であつたが、時局の進展と共に逐年増加を見昭和十七年度には採用人員三千名に對し六十餘倍の二十五萬一千五百九十四名に達し此の中には名門の子弟や中等學校卒業者も多數含まれるに至つた。この趨勢に鑑み總督府では更に京城府外に第二志願兵訓練所を増設することになり既に十七年十二月から取敢ず平壤に假訓練所を開設收容してゐる。斯くて志願兵の應募者が激増すると共に入隊後の成績も毫も内地人兵に劣らぬものがあり、而も大東亞戰爭勃發以來半島同胞が示した皇國臣民としての物心兩面の飛躍は遂に結實して、こゝに内鮮一體の精華ともいふべき徴兵制度の實施決定をみたのである。即ち昭和十七年五月これが發表を見るや都鄙の別なく奉告祭其の他各種記念行事が行はれ總督の机上には感激電報が山と積まれる有様であつた。然し同制度の實施は事實上昭和十九年度であるが、それまでに全半島青年が眞に皇軍の一員としてよく御奉公を努め得る精神と肉體を備へしむる爲には、なほ一段の鍊成を要するので、總督府では學校、青年訓練所等の既設の機關に依る教育鍊成に意を注ぐと共に、新に朝鮮青年特別鍊成令を公布、これに基いて昭和十七年十一月一日を期し全鮮都邑に「朝鮮青年特別鍊成所」を開設し適齡前の半島青年の鍊成に萬全を期してゐるのである。

一、皇國臣民化の諸事象

▽皇國臣民化の趨勢

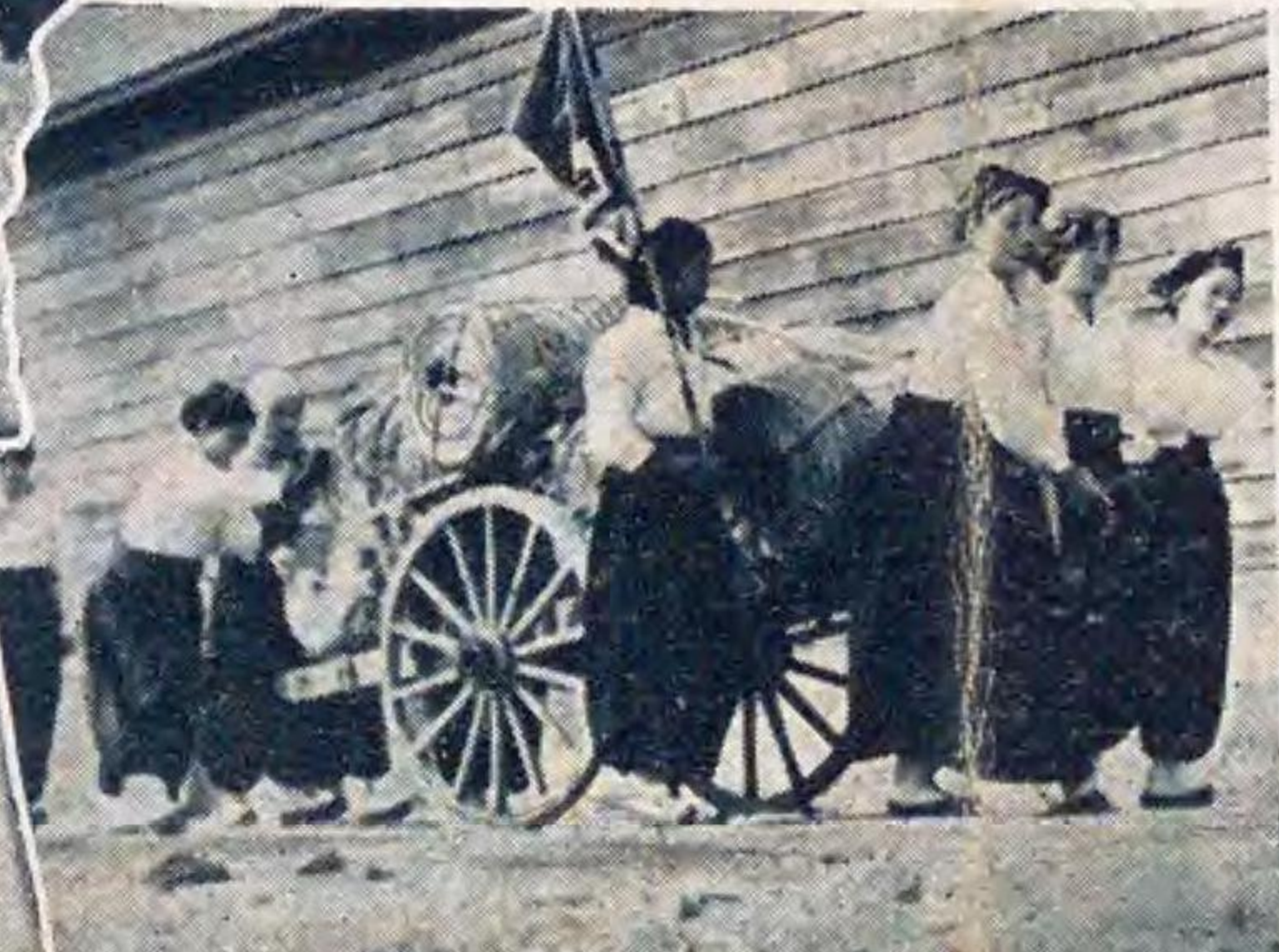
併合以來歴代總督は半島同胞の皇國臣民化に對し絶へざる努力と指導を傾注し來つたが滿洲事變、支那事變、大東亞戰爭と偉大なる世界史の變遷に目醒めた半島民衆の皇國臣民化の實情は神社參拜、國旗掲揚、國語普及、獻金品、軍用徴發に對する奉仕的態度等凡ゆる點に見受けらるゝところである。

▽國語普及

日本精神の體得は先づ國語の修得にあるが鮮内教育の普及に伴ひ國語を解する朝鮮人も逐年増加し昭和五年百六十餘萬人であつた國語解得者数は十年後の昭和十五年には三百五十七萬人に達し朝鮮總人口の一五、六%に達するに至つたが今亦徴兵制度施行に關連し全鮮的に國語解得の熱望の漲るまゝ當局の各種施設と相俟つて今後解得者の増加は刮目すべきものがあらう。

▽獻金品

支那事變勃發以來國防獻金に現れた半島の赤誠は支那事變勃發より現在迄陸海軍合して四千四百二十萬一千三百八圓九十七錢（昭和十七年九月末日）に達し大東亞戰爭勃發以來の獻金は僅か八十餘日にして支那事變四年有半の總額の二・七倍に達し事變中の一日平均獻金額七千六百五十八圓に對し大東亞戰爭勃發以後は忽ち二十一萬七千餘圓と跳躍物凄く米





棉

英撃滅の聖戦に擧る國民の感激を如實に反映してゐる。  
飛行機、兵器等の獻納(支那事變勃發後現在迄)

飛行機

四二九臺

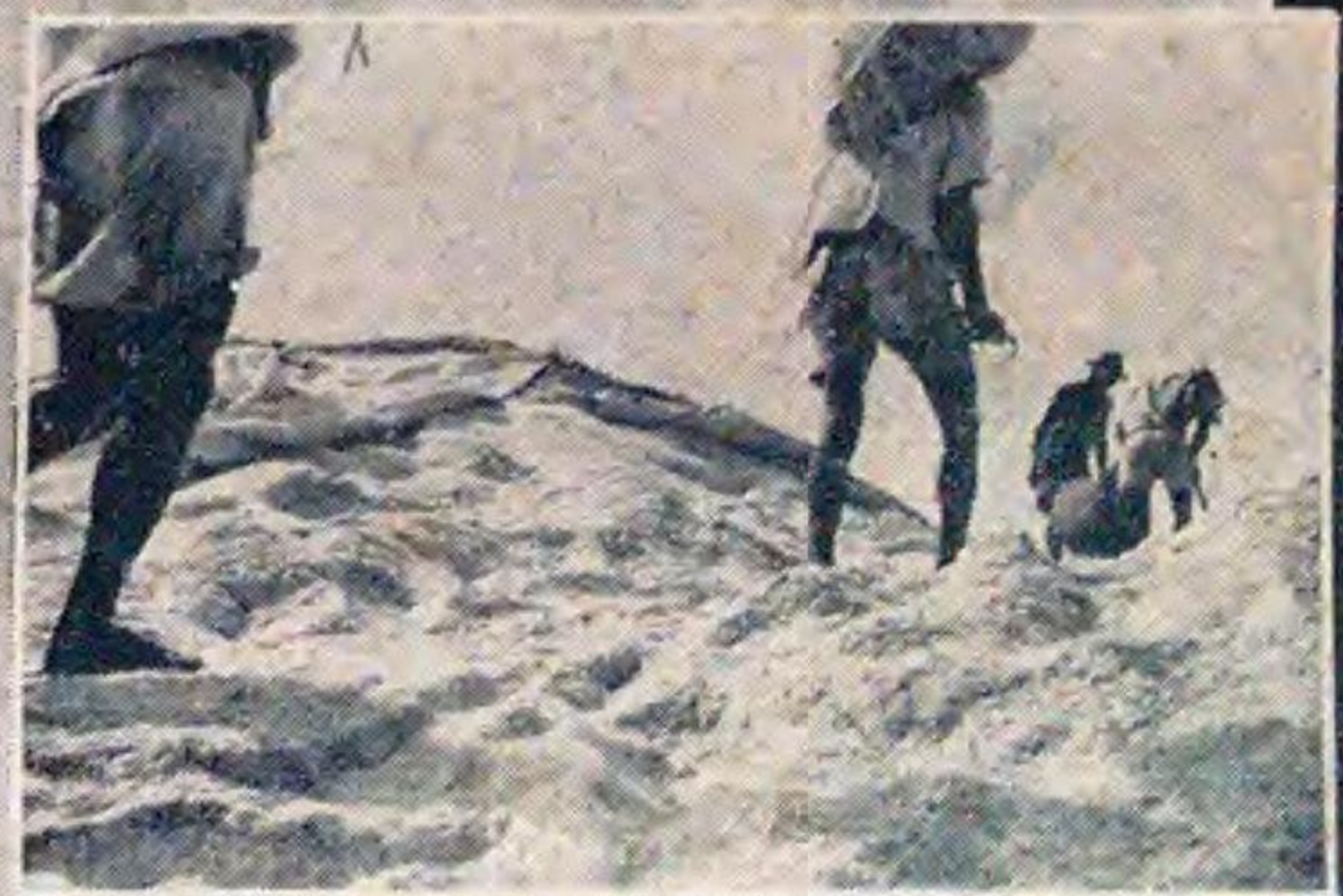
兵

器

三九五點



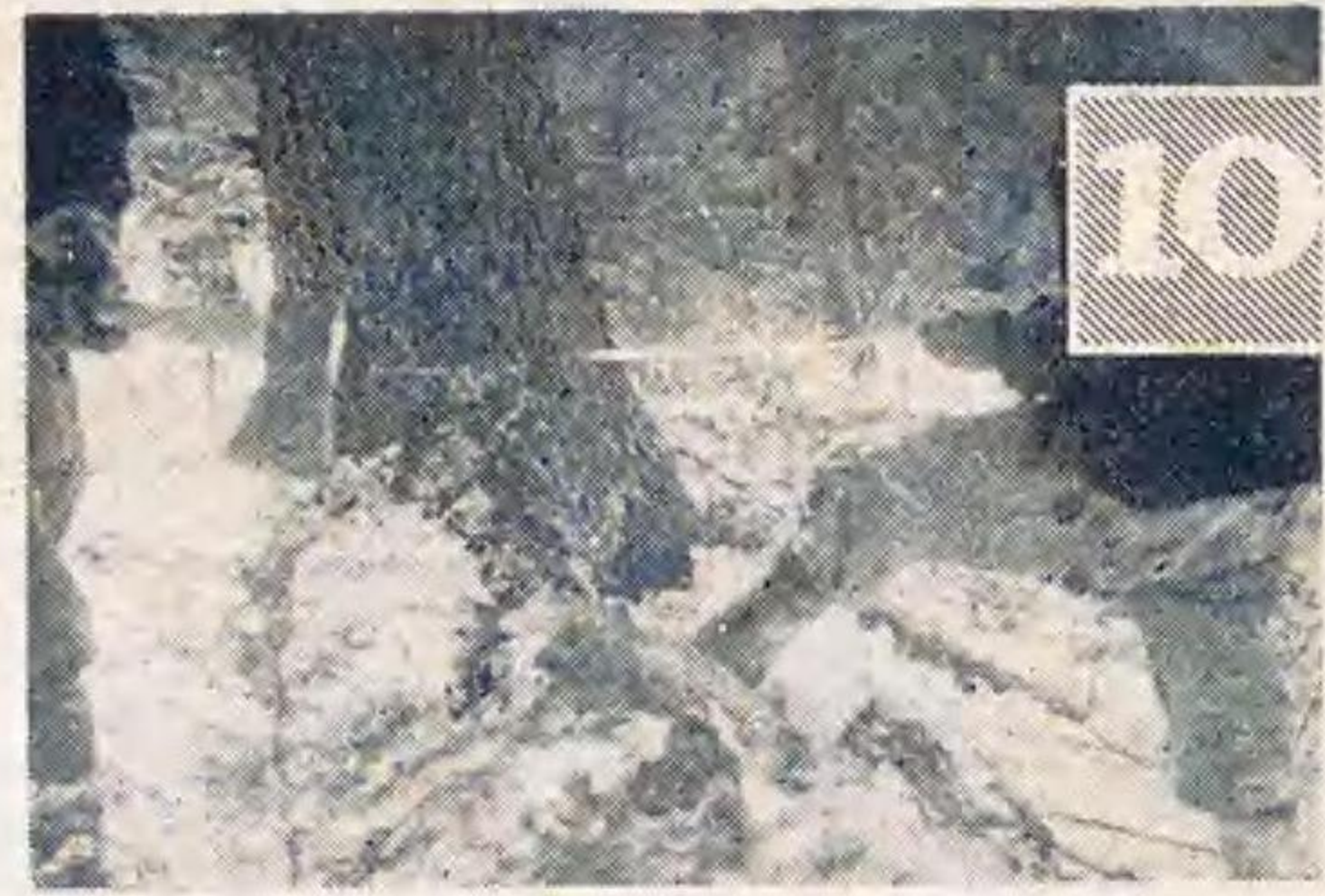
鹽



今日皇國の必勝を祈念し朝鮮神宮の大前に額づく人々の姿は年に三百五、六十萬を數へ之を事變前に比すれば三倍乃至四倍の激増でありこゝにも聖戰完遂の意氣に燃ゆる銃後半島の一面を窺ふことが出来る。  
全鮮限無く神社神祠の著しい普及と共に一般の敬神觀念も大いに昂揚して來た。

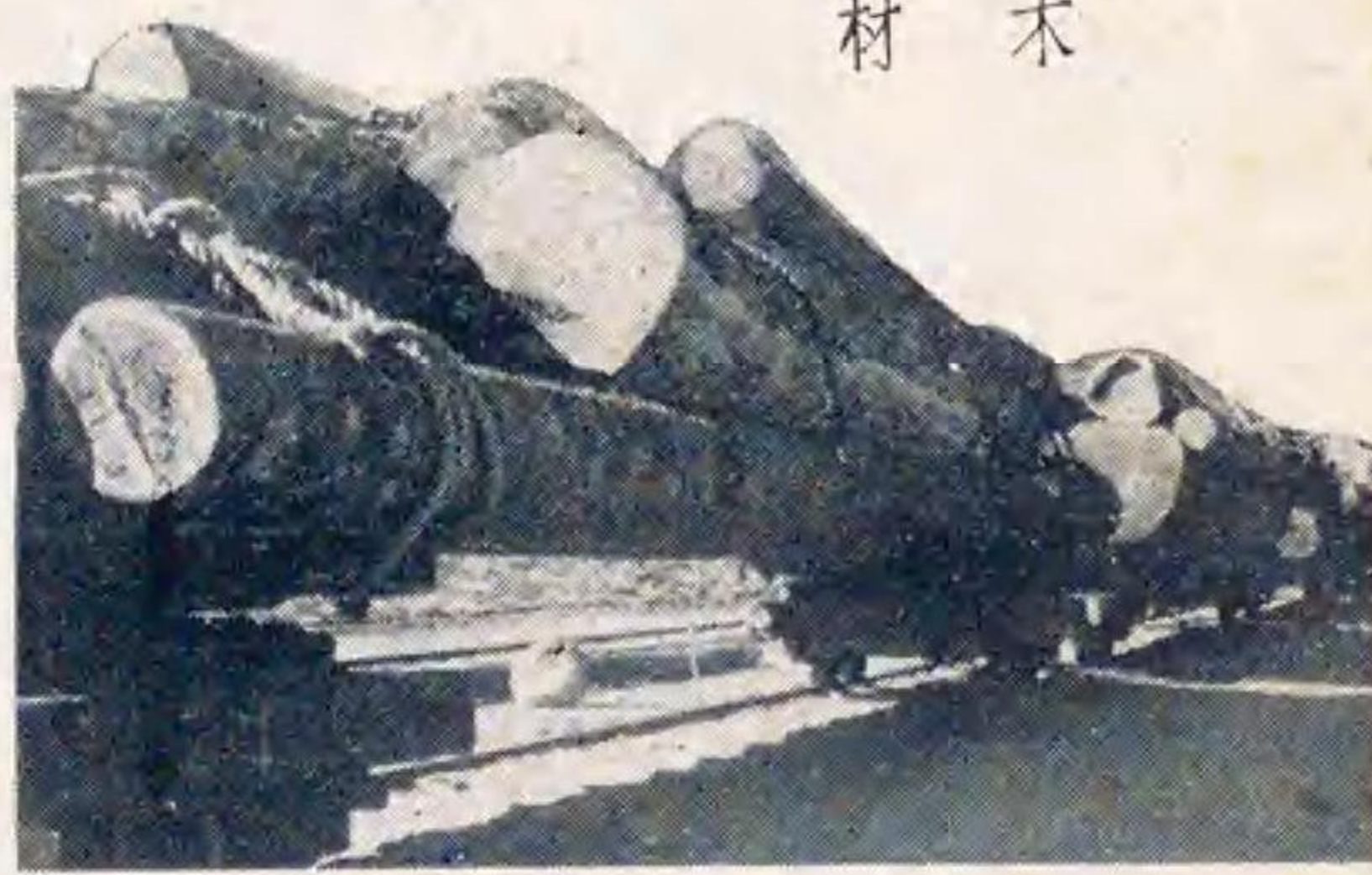
### 一、國民總力運動

半島同胞の皇國臣民化を完成し、其の愛國心の昂揚と職域奉公の實を擧げることとは最も緊要であるので昭和十三年總督府の強力なる指導の下に國民精神總動員朝鮮聯盟を結成し全鮮二千四百萬官民を擧げて愛國班員として専ら精神運動を基調とする皇民道の實踐強化に努めて來たが、其後内外時局の進展は單なる精神運動のみに止まらず更に物心兩面に互つて強力なる戰時生活の實踐と職域奉公の徹底並に戰時意識の昂揚に國民の總力結集發揮を要請されるに至つたので内地の大政翼賛運動に呼應し昭和十五年十月聯盟は發展の解消を行ひ新に國民總力朝鮮聯盟が誕生し、上意下達の妙味を發揮する國民總力運動の發足を見るに至つた。本運動は鮮内に於ける凡ゆる民間運動を統合包攝して總督政治と表裏一體の關係に於て之を圓滑に推進透徹せしめんとする國民運動でありその本質は政治運動ではなくあくまで銃後國民の奉公運動であり皇民的鍊成を遂げんとする下部より盛上るべき實踐運動である點に於て内地に於ける大政翼賛運動と異なつてゐる。  
現在の愛國班數(内地の隣組)約四十二萬に達してゐる。



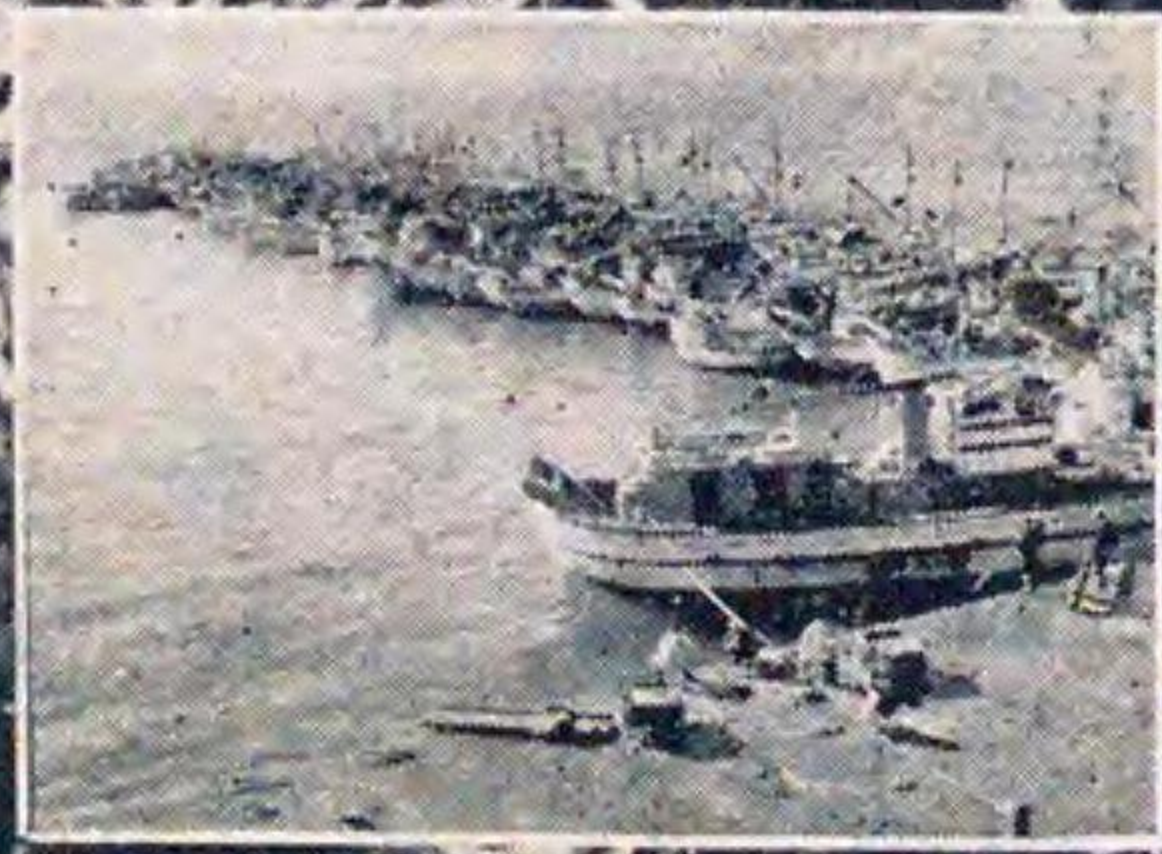
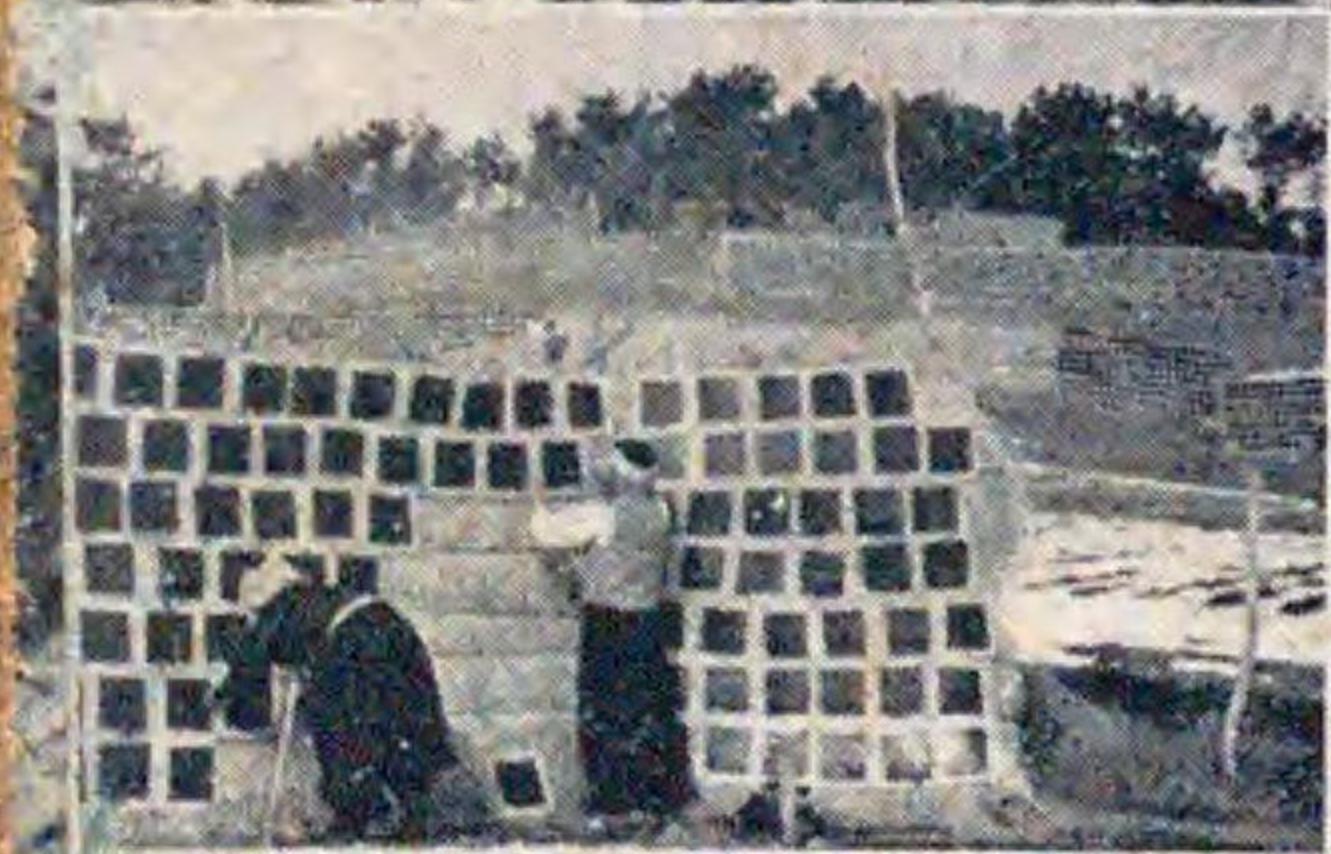
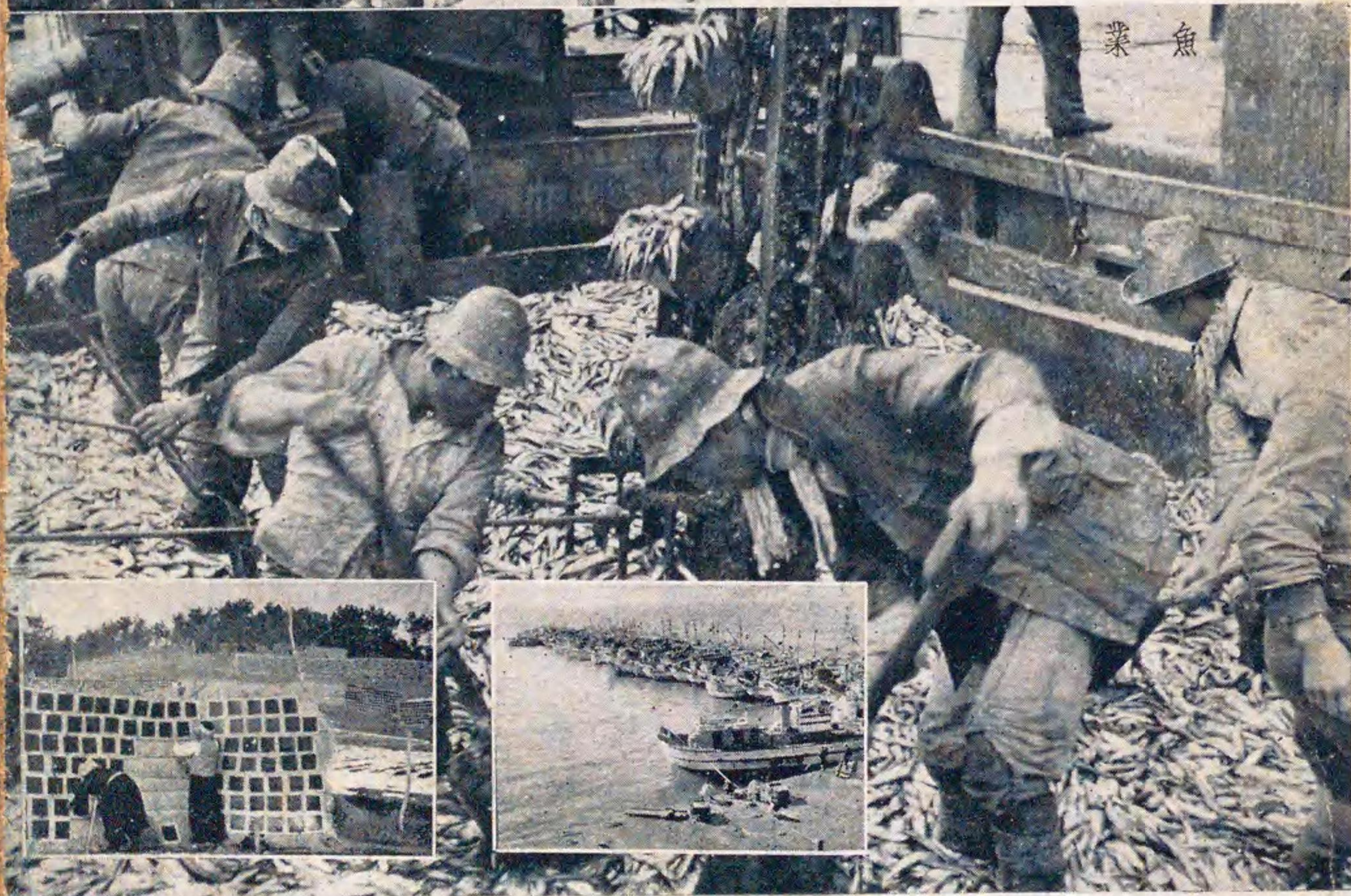
10

材木



ウラチホストック

魚業



△ 濟的にある。

農林水産畜工  
農林水産畜工  
即ち合當時増大し事變以

12

廉なるの出力云はれ農業者通りで我が朝



13

14



11



石炭



陸文化が日本に流入し絢爛たる日本独自の文化の華を咲かせたが、歴史の環流は今日昭和の聖代に於て、皇道文化が逆に半島を介して大陸に、更に南方諸地域に實を結ぶべき宿命を顕現しつつあるのである。方に半島こそ皇道示現の生きた姿であり、嘗つて來訪したイタリヤ親善使節團が「朝鮮に來て始めて始めて始めて日本の眞の姿を見た」と洩らしたのも決して偶然ではないのである。

濟的に半島の有する實力を検討するとき、一層兵站基地朝鮮の名に相應はしく聖戰完遂に寄與するところ大なるものがある。

### 一、兵站基地朝鮮

朝鮮は支那事變以來大陸前進兵站基地の名を以て呼ばれてゐる。帝國唯一の大陸接續版圖である半島は所謂大陸の足場とも云はれる位置にあり此處を起點として滿洲に伸びる一線は帝國北邊鎮護の生命線であり、更に北支より南支を通じて南方諸地域と連る線は帝國の大東亞建設の樞軸と云つても過言ではない。嘗つて半島を介して大

### ▽産 業 朝 鮮

農	林	鑛	水	畜	工
産	産	産	産	産	産
額	額	額	額	額	額

明治四十二年

二〇、〇〇〇萬圓  
一、九二四萬圓  
六〇〇萬圓  
九〇〇萬圓  
一、三〇〇萬圓  
一、五〇〇萬圓

昭和十六年

二二三、九五六萬圓  
三四、四二六萬圓  
二、七六二萬圓  
三五、七八五萬圓  
一三、六〇二萬圓  
一八七、三六三萬圓(昭和十五年)

即ち施政以來三十有餘年、半島の産業各般に互り類例を見ない躍進ぶりを示してゐるのであるが、特に留意すべきは併合當時は農産が八割を占め、工産は僅か〇、四割にすぎなかつたものが、最近に於ては農産額が併合當時の十倍二十億に増大したのと同時に工産は併合當時の百餘倍十八億七千萬圓に増大、殆ど相匹敵するに至つた事實である。これこそ滿洲事變以來半島工業の著るしき勃興を物語るもので、最近殊に北鮮地方に幾多の



大工場の建設を見、紡績業、織物業、金製錬、輕金屬工場、バルブ、セメント、製粉、硫安それから北鮮の無盡藏といはれる鱒を原料とする硬化油工業等の勃興と併せて石炭液化工業、車輛工業、製鐵業、火藥工業等時局工業の目覚ましい躍進を見つゝある。即ち内地に賦存せざる若くは賦存の僅少なる幾多の重要資源の豊富なる賦存と、豊富低廉なる勞働力、規模世界第二と云はれる鴨綠江水電を初め、之に亞いで日本一の出力ある赴戰江、長津江其他河川に於ける水力電氣、無盡藏の埋藏ありと云はれる石炭等朝鮮に於ける工業の前途は極めて利目すべきものがある。

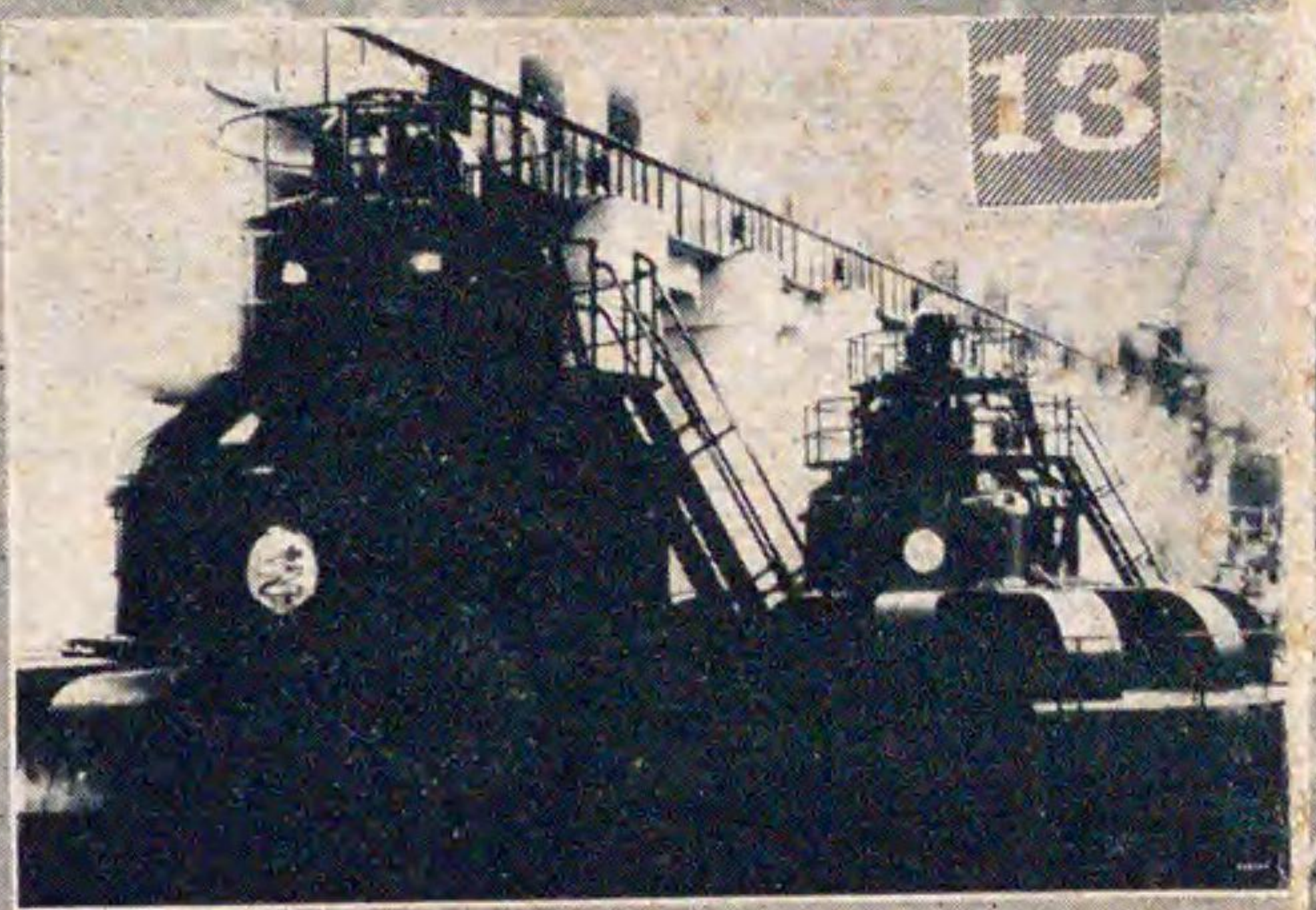
農業に於ては毎年一千万石内外の米を内地に移出しつゝあつたことは周知の通りで大麥、大麻は何れも全國産額の半量以上、棉は内地には殆ど産出を見ないが朝鮮に於ては年二千万斤を越す産出あり、重要移出品たる大豆及甘薯、小麥、裸麥、粟、馬鈴薯、蔬菜、果實等「穀倉朝鮮」「農業朝鮮」の名も偶然ではない。

米

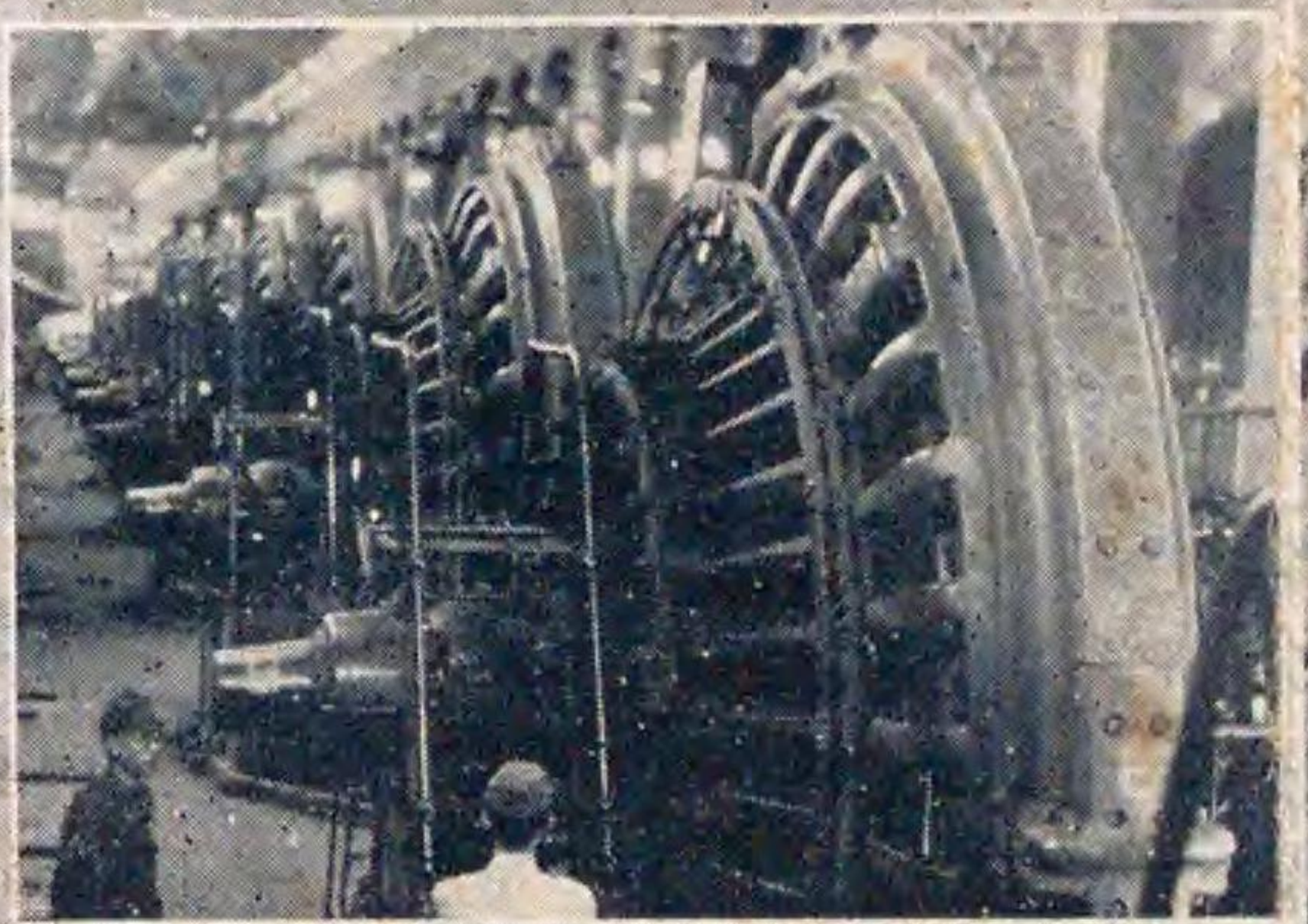
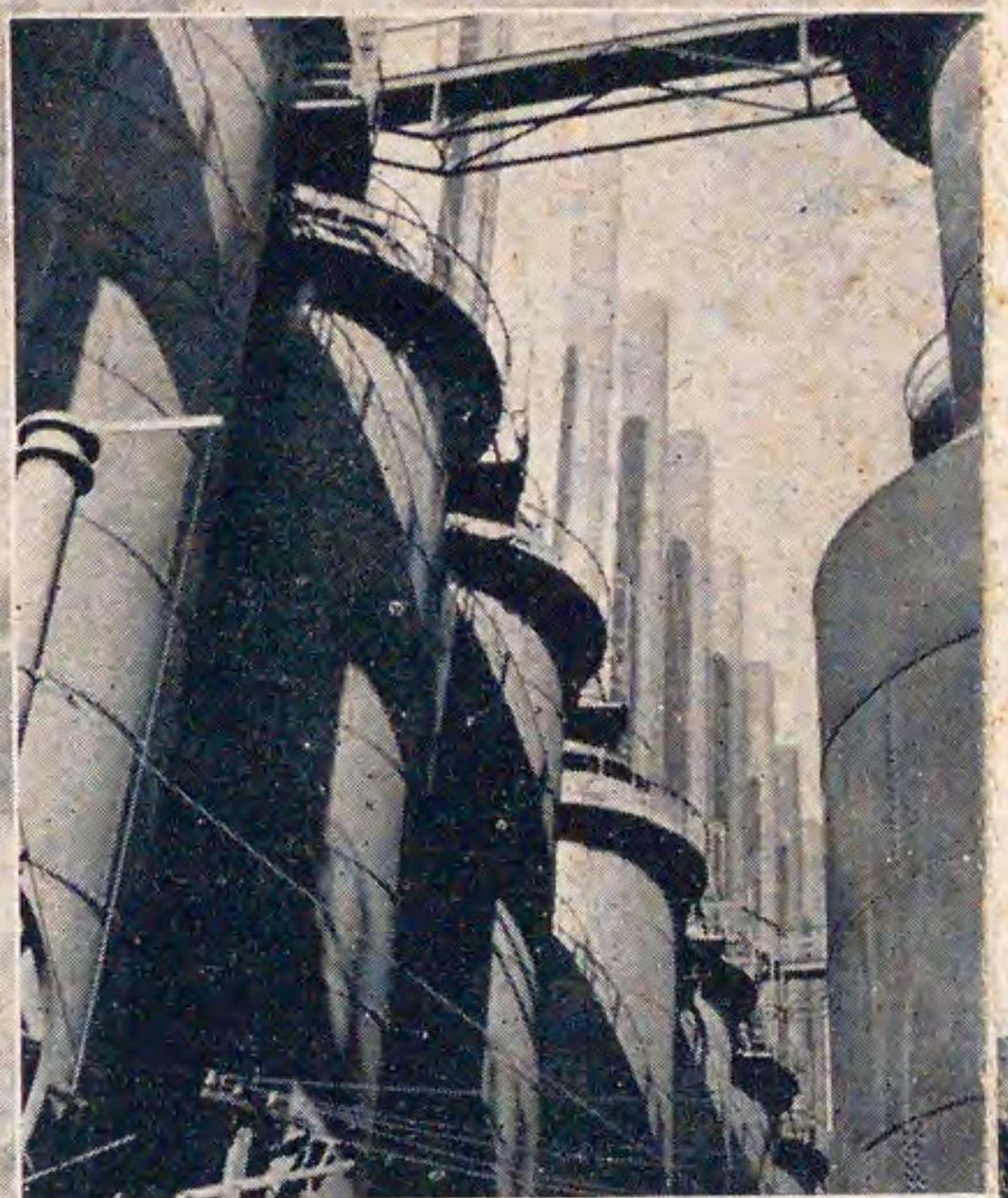


13





電 發



水産には世界一と稱される北鮮の鱈あり、火薬、石鹼、グリセリン、臘燭、飼料、肥料等の原料となるが更にめんたい、さば、にしん、たち、えび、たら等も豊富で、殊に南鮮の海苔は淺草海苔の名で市場に出されてゐる。

鴨綠江、圖們江の流域にはバルブ資源たる千古の大密林があり、更に鑛業に於ては宛然鑛業博物館の觀あり、全國産額の半分を占める金、鉛、鐵の外總埋藏量二十億噸と稱せられる石炭、特に内地に殆ど産出なく、或は極めて産出の僅少なるコバルト、タングステン、マグネサイト、螢石、雲母、明礬石等重要軍需資源の豊富なる賦存は極めて心強いものがあ

る。本府に於ては米について昭和三十年三千五百萬石を目標に増米計畫進捗中の外、棉、緬羊、馬、其の他につき既定の増産計畫を進めつゝあるが、更に時局の要請に應じ、農、工、鑛、水産の各般に互り生産擴充に一段の拍車を加へつゝある。

### 一、結 び

以上朝鮮について概説したが、物心兩面に互るその躍進の跡は方に聲を大にして誇るに足るものがあると思はれる。

特に人口が併合當時に比し約二倍に増加してゐる事實は、諸外國の植民地統治に於ては全然類例を見ないところで、以て半島統治の根本に於てこれら植民地統治と全く異るところを端的に物語るものに外ならない。

或は人口の七割を占める農家の一戸當収入が併合當時の八十五圓から八百圓と約十倍に増加してゐる事實、或は人口一八倍、金高が一圓六十錢を越つたものが約七十倍、八十圓に増加してゐる事實、各般に互る文化の向上等昔を知るものにとつては方に隔世の感があらう。

14

だが半島はこれからである。大東亞共榮圈建設の上に半島が負荷すべき使命は極めて重大であり、その使命を自覺すればこそ半島官民は擧げて血みどろな自己鍊成と、努力をかたむけてゐるのである。朝鮮はこれからである。そして或る人がたとへた様に帝國の右の腕として大東亞建設の上に負荷する使命を完全に達成せんが爲には内地各方面の洩れなき理解と、協力が極めて肝要なことをくり返し強調したのである。

朝鮮について研究、御調査の方は御遠慮

なく朝鮮總督府情報課へ御相談下さい。

重工業



昭和十八年三月二十八日印刷  
昭和十八年三月三十一日發行

【定價二十錢】

朝鮮總督府情報課

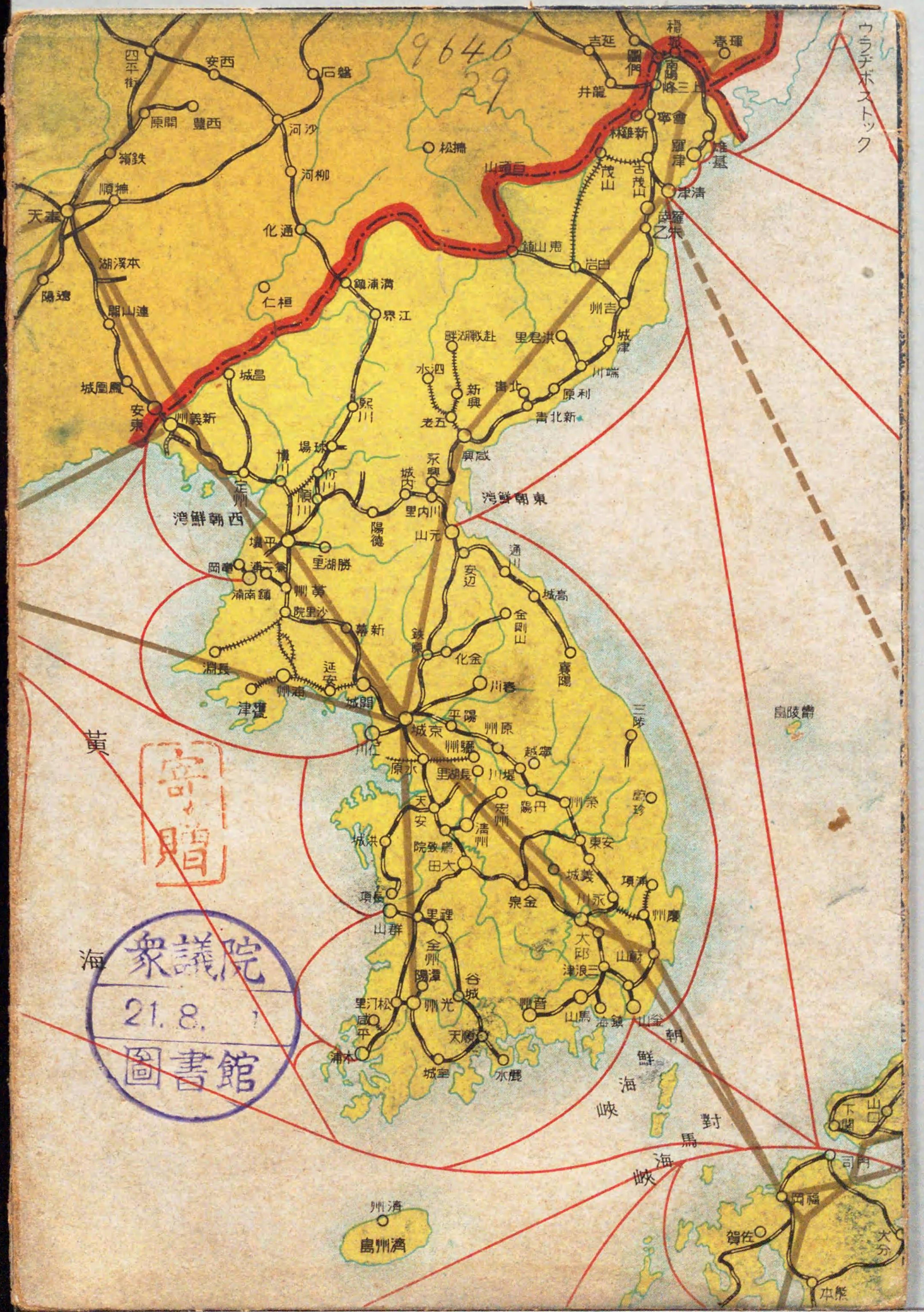
京城府蓬萊町三ノ六二

朝鮮印刷株式會社



ウラチホストック

9640  
29



黃  
寄贈

海  
院議院  
21.8.  
圖書館

馬對  
峽海

濟州島

本縣